

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	その他レジャー施設 [ 球場 ]（経理担当）	・7～8月の夏休み期間にはプロ野球の人気球団の試合などが予定されているほか、アイドルグループのコンサートや子供向けのイベントなどが開催されるため、多数の来場者が訪れる。
	やや良くなる	コンビニ（店長） 家電量販店（経営者） 高級レストラン（支配人） 通信会社（経営者） 通信会社（企画担当）	・前年に続いて今年の夏も暑くなるため、ソフトドリンクなどの販売量が全体的に増える。 ・デジタル放送の開始やオリンピックの開催により、AV機器への需要が高まる。 ・サミットによる警戒の強化で観光、ビジネス客が少なくなり、販売量も落ち込んでいるが、今後は回復に向かう。 ・新商材の発売により買い換え需要が掘り起こされるほか、7月には大手通信会社によるキャンペーンが行われるため、市場が盛り上がる。 ・出遅れていたゲーム機の普及が進むのに伴い、今後はゲームソフトの売上が伸びる。
変わらない		一般小売店 [ カメラ ] （販売担当）	・最近では機器販売が落ち込み、プリント需要に依存している状態であるため、今の状態が維持できればよい。
		百貨店（売場主任）	・ユーロ高、素材の高騰などで値上げが更に進み、消費者の財布のひもが固くなる。
		百貨店（売場主任）	・ジャケットなどの主要アイテムの動きが依然として鈍く、上向く気配もない。
		百貨店（売場主任）	・家計悪化の影響を受けやすい紳士服については、買い控えがますます増える。
		百貨店（企画担当）	・衣料品を中心に、消費の低迷が続く。
		スーパー（経営者）	・国産品への信頼を無にするような産地偽装事件もあるが、オリンピックの開催で家庭での食事が増えるため、売上が伸びる。また、食品の値上げが進むことで、比較的低価格の商品を扱っている当社への来客数が増える。
		スーパー（経営者）	・燃料の高騰で遠出が控えられ、地元での消費が増えている。ただし、全体的な買い控えが続いているため、売上全体としては変わらない。
		スーパー（店長）	・これからも電気やガス、そのほかの商品でも値上げが続くことから、良くなることはない。
		スーパー（経理担当）	・今年は海外旅行、国内旅行共に低調であり、内食需要が高まるため、食品スーパーにはプラス要因となる。
		スーパー（管理担当）	・偽装表示などで食品に対する不信感があるほか、値上げも徐々に浸透することから買い控えがおこる。
		乗用車販売店（経営者）	・7、8月の連休需要が見込まれるものの、その動きが全くみられず、客足は鈍い。
		乗用車販売店（営業担当）	・新車販売の目標台数は上がっているものの、客の様子をみると中古車や修理にお金が回っている。
		乗用車販売店（営業担当）	・例年は夏のレジャーシーズンに向けて購買意欲が高まる時期であるが、ガソリン価格の高騰により、自動車では移動しないユーザーが増える。
		その他専門店 [ 医薬品 ]（店員）	・暑くなるにつれて健康関連の商品がよく動くが、最近の健康食品関係の報道で、客の様子が若干変わりつつある。
		その他専門店 [ 宝飾品 ]（販売担当）	・新しいブランドの展開を検討しているが、宝飾品は購入の優先順位が高くないため、どこまで客が動くかは不透明である。
		一般レストラン（店員）	・近隣に新しくできたチェーン店に行く客が増える。
		観光型ホテル（経営者）	・夏休みは個人客の宿泊が増えるが、今の予約状況を見ると、かなり宿泊単価を下げなければ集客は難しい。
		観光型旅館（経営者）	・地元で倒産が続き、不況感が充満している。旅館のようなレジャー施設は明るいニュースがないと落ち込むため、数か月で状況が好転することはない。
		都市型ホテル（マネージャー）	・堅調な宿泊部門に多少の期待は持てるものの、オリンピックの開催や東京での大規模イベントの開催などで、大阪への来訪は減少する。宴会部門も予約状況は芳しくなく、現状維持が精一杯である。
		旅行代理店（広報担当）	・北京オリンピックが始まれば外出が減るため、好調な国内旅行にも影響が出る。その一方、中国の生活文化などの報道が増えることで、オリンピック後の海外旅行需要が高まる。
観光名所（経理担当）	・ここ数か月は買物袋を下げている観光客数も少ないなど、し好品の売上が伸びていない。		

	<p>その他サービス〔学習塾〕（経営者）          その他サービス〔生命保険〕（営業担当）          住宅販売会社（経営者）          住宅販売会社（経営者）</p>	<p>・来月に行う無料体験キャンペーンの結果によっては、生徒数が増加する。          ・株価の低迷や、原油高などによる物価の上昇により、生命保険への新規加入を検討するケースが減少している。          ・相変わらず良くなる材料は見当たらない。今後も建材価格などの上昇により、営業面では厳しくなる。          ・住宅分譲を取り巻く環境は非常に悪く、集客状況、契約決定率共に非常に悪い。特に、ガソリンや日用品、食料品の値上げが大きく影響しており、今後も厳しい状況が続く。</p>
やや悪くなる	商店街（代表者）	<p>・徐々に閉店する店が増えているほか、店ごとに休日がばらばらで閉店時間も早まっているなど、先行きの見通しは厳しい。          ・7月以降、文具事務用品でも多くの商品が値上がりする。</p>
	一般小売店〔事務用品〕（経営者）	<p>・7月から様々な物が値上がりすると報じられているが、特に若い客はそれに見合う収入がないため、買物をする気にならない。</p>
	一般小売店〔時計〕（経営者）	<p>・物価が上昇するなかで、し好品のゴルフクラブにまでお金が回らない。</p>
	一般小売店〔ゴルフ用品〕（店長）	<p>・3～6月の売上を上位5店舗の平均でみると、関西は前年比95.7%と芳しくない状況であり、今後も不安定な状態が続く。</p>
	一般小売店〔菓子〕（経営企画担当）	<p>・これからギフトシーズンに入るが、中元は歳暮よりも節約される傾向にある。今年は特に景気全体の動きも悪い、雰囲気が悪い。</p>
	一般小売店〔精肉〕（管理担当）	<p>・食料品の相次ぐ値上げにより、身の回りの衣料品では買い控えが進む。</p>
	一般小売店〔衣服〕（経営者）	<p>・このまま原油の高騰が続けば、値上げの検討も必要となる。</p>
	一般小売店〔自転車〕（店長）	<p>・様々な商品が値上がりするため、趣味の部分にまでお金が回らず、販売量が減少する。</p>
	一般小売店〔楽器〕（販売担当）	<p>・ファッション商材には必需品となるアイテムがないほか、様々な物価の上昇で財布のひもが固くなっているため、現状よりも良くはならない。</p>
	百貨店（売場主任）	<p>・セール品や低価格品以外は動きが悪い。特に宝飾関連の動きが鈍くなっている。</p>
	百貨店（企画担当）	<p>・高額な紳士服を購入していた経営者などで、今シーズンは新調を控えるケースが増える。</p>
	百貨店（営業担当）	<p>・工事の影響で来月から営業面積が減少し、客に迷惑を掛ける状況が続くため、前年実績の確保は難しい。</p>
	百貨店（サービス担当）	<p>・客の間では衣料品を買う余裕がなくなっており、夏物衣料は7月からのクリアランスセールで動き始める。ただし、その後の秋物商戦も大きなトレンドがないため、苦戦が続く。</p>
	百貨店（売場担当）	<p>・生活必需品しか動かなくなっており、ファッション性の高い衣料品は販売点数が更に悪化することになる。</p>
	スーパー（店長）	<p>・原材料高は収まる気配がないほか、新たに発覚した食品の偽装問題により消費者の不信感が更に高まる。</p>
	スーパー（管理担当）	<p>・来客数が減少傾向にあるほか、今後は消費全体が冷え込むため、客単価が落ちてくる。</p>
	コンビニ（店長）	<p>・タスポの普及が進むのに伴い、多少は来客数が以前の水準に戻る。</p>
	コンビニ（店長）	<p>・ガソリン価格の上昇で車に乗る頻度が減っているため、新車の販売や修理、車検などの予約が少なくなる。</p>
	乗用車販売店（経営者）	<p>・様々な商品の値上がりで家計に負担が掛かるため、外食に出掛ける回数が減る。</p>
	一般レストラン（経営者）	<p>・原油や穀物価格の高騰が生活必需品の値上がりにつながり、生活を圧迫し始めている。自動車での来店を前提とした郊外型店舗には、今後深刻な影響が出てくる。</p>
一般レストラン（スタッフ）	<p>・ガソリンの高騰などで来客数が減ってきており、今後も厳しい状況が続く。</p>	
観光型ホテル（経営者）	<p>・原油高や高齢者の医療制度問題などでレジャー消費が控えられており、売店の販売状況も悪化している。</p>	
観光型旅館（経営者）	<p>・原油や生活関連商品の値上がりにより、接待費の削減や日帰り出張を徹底する企業が増えている。一般客でも、外食回数を抑えるという声が目立ち始めている。</p>	
都市型ホテル（スタッフ）	<p>・9月の連休が飛び石になっているなど、宿泊予約の状況は個人客、団体客共に悪い。宴会では予約件数が伸びているものの、大型宴会が中止になったことで、売上ベースでは厳しい。</p>	
都市型ホテル（役員）	<p>・</p>	

		都市型ホテル（営業担当）	・宿泊は、夏休みの個人予約が前年並みに入っており、特に旅行代理店からのインターネット予約が増えている。ただし全体的には、最近では実際に伸びる傾向があるものの、7月前半の予約に全く勢いが無い。一般宴会も7月以降は特別な宴会がなく、予約は伸びていない。
		旅行代理店（経営者）	・燃油サーチャージの問題は当面解決が難しいほか、最近の景気後退ムードが客の心理に与える影響も大きい。
		タクシー運転手	・食料品などの値上げによる影響が、低所得者や高齢者に大きく出てきている。それに伴い、外出時のタクシー利用を控えるといった節約がますます増える。
		タクシー運転手	・タクシー会社の売上は全体的に減少しているものの、タクシーの台数は減っていないため、1台当たりの売上が落ちてきている。
		観光名所（経理担当）	・来客数に陰りが出てきている。夏に向かってイベントを強化するが、前年の水準を上回るのは困難である。
		美容室（経営者）	・最近、2～3店舗が新規オープンしたものの、人通りが少ない立地であるため見通しは暗い。
		住宅販売会社（総務担当）	・イベントや広告を行っても集客状況が悪く、原油の高騰などの先行き不安もあるため、客が契約に踏み切れない状態が続く。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・マンション販売の不調や、地価の下落傾向が続いており、新築需要の喚起は難しい状況にある。
	悪くなる	商店街（代表者）	・値上げ品目が今後も増えるため、ボーナスが支給されても外出はあまり増えない。
		百貨店（商品担当）	・相次ぐ値上げのニュースで顧客心理が冷え込んでおり、特に10万円を超える高額品の動きが鈍い。接客していても無駄な物は買わないほか、2万円以上の価格に対して非常に敏感になっている。
		スーパー（店長）	・食料品を中心とした値上げが続くなか、客の間では節約志向が更に顕著となり、食品以外の衣料品、住居関連商品の買い控えが進む。
		衣料品専門店（経営者）	・物価の上昇に対して主婦は節約に努力しているため、婦人服やぜいたく品には手が回らないのが現状である。少しでも欲しい物があれば、バーゲンが始まるまで待つため、8、9月はかなり落ち込む。
		乗用車販売店（経営者）	・原油の高騰や物価の上昇、可処分所得の減少など、車の購入にマイナスの要素ばかりが目立つ。
		乗用車販売店（営業担当）	・同業者が価格を下げていくため、こちらも下げざるを得ない状況である。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・値上げすると客が減るという懸念から、飲食店では個人店舗を中心に値上げが進んでいない。このままでは閉店する店が出てくる。
		一般レストラン（スタッフ）	・今後も値上げが進むため、客の動きはますます鈍くなり、来店回数が減少する。
		競輪場（職員）	・ガソリン、食料品などの大幅な値上げにより、レジャーに使う費用が確実に減少している。こうした状況が、今後数か月のうちに好転することはない。
		住宅販売会社（経営者）	・同業者からの話を総合しても、上向きの情報は全くない。流通在庫の増加や地価の下落など、秋ごろまでは後退が続く。
		住宅販売会社（従業員）	・マンション、戸建ての販売状況が非常に悪いほか、銀行の不動産会社に対する融資姿勢が厳しくなっているため、資金繰りの悪化が加速する。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・原油や資材の高騰でコストが上昇する一方、消費者の購入マインドが高まる要素は少ないため、更に厳しい状況となる。
企業動向関連	良くなる		
	やや良くなる	木材木製品製造業（経営者）	・販売価格への転嫁は十分に進んでいないものの、受注量は増加の兆しが顕著になっている。
		輸送業（営業担当）	・当社はすべての運賃を10数年ぶりに値上げしたが、荷主には簡単に認められた。燃料高に伴う運賃の値上げは理解を得られやすい。
変わらない		繊維工業（団体職員）	・原油高騰により、外注加工業者からの更なる値上げ要請が来ているなど、採算の悪化が進む。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・原材料の値上げが続く一方、販売価格への転嫁は難航するため、悪くなることはあっても良くなることはない。
		化学工業（管理担当）	・建材関連の市況回復が遅れており、先が読めない。取引先からも芳しい声は聞かれない。

		金属製品製造業（総務担当）	・学校などで耐震工事の需要はあるものの、公共工事が増えることはないため、まだまだ厳しい状況が続く。
		一般機械器具製造業（経営者）	・鉄鋼関連の顧客からの引き合いがやや低調であり、設備投資の計画も少ない。今後もこの傾向が続けば、業況は低調となる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・原油などの資源高の影響は予想以上に大きく、今後はコストが上がってくるため、大きな影響が出る。
		建設業（経営者）	・鉄をはじめとする建設資材が急騰しているほか、依然として受注競争は激しいため、今後も厳しい状況が続く。
		建設業（営業担当）	・短期的には変化はないものの、年末や来年には建設業も悪化する。
		輸送業（営業所長）	・燃料が毎月値上がりしている状態で、利益が圧迫されている。
		輸送業（総務担当）	・客からの明るい情報がないほか、原油価格の動向も不透明である。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・原材料価格の上昇に伴って値上げが増えているものの、売上の伸びている商品は少ない。
	やや悪くなる	食料品製造業（従業員）	・食品全般で値上げが発表されるなか、まだ実際に価格の上がない商品も、これから価格改定が進む。それに伴ってますます買い控えが進み、必要な物しか購入しなくなる。
		繊維工業（企画担当）	・知り合いの店舗での閉店や廃業が相次ぐなど、様々な意味で余裕がなくなっている。
		繊維工業（総務担当）	・大手量販店からの処分品による値下がりの影響が大きいほか、特に夏場は動きが鈍くなるため、例年よりも注文が減る。
		金属製品製造業（経営者）	・原材料や資材の値上げに対する製品価格への転嫁が難しく、採算ラインを割る製品も出てくる。
		金属製品製造業（管理担当）	・今後も鋼材、燃料、電気、消耗品などあらゆる物が値上がりするため、販売価格の設定や利益の確保が難しくなる。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・オリンピック後は商品の荷動きが低迷する。
		金融業（営業担当）	・自動車部品製造業などの取引先では価格転嫁が進んでいないため、当分は収益の悪化が続く。また、不動産業や建設業の取引先では、資金繰りの悪化により倒産が増える。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・折込み広告の収益が悪化し、新規購読の獲得も思うように伸びないなか、経費削減を理由にスポーツ紙の購読を控える企業が出始め、実配数も落ちている。
		広告代理店（営業担当）	・夏に向け、関西地域の広告出稿は厳しい話しか聞こえてこない。
		司法書士	・現在進行中の案件も少なく、特に良くなる材料も見当たらない。現在の状況も決して良くないが、現状維持すら難しい。
	悪くなる	繊維工業（総務担当）	・食料品やガソリンなどの値上がりや企業業績の悪化懸念から、消費者の間では不安が広がっており、靴下への支出も急激に減少している。製造コストの上昇分を製品価格へ転嫁することもできず、二重苦の様相となりつつある。
		化学工業（経営者）	・半年以上先の大型物件には幾つか問い合わせがあるが、夏から秋にかけてはそういった話もなく、売上の見通しが立たない状況である。
		化学工業（企画担当）	・原料価格が高止まりしており、数年前の状況に戻ることはない。
		金属製品製造業（営業担当）	・複数の客からは、先の受注が減少傾向にあるとの声が聞かれる。
		一般機械器具製造業（設計担当）	・今後、企業が更なる経費削減を進めるなかで、いずれ設備投資も打ち切られることになる。
		不動産業（営業担当）	・不動産ファンドが土地を買えなくなっており、今までは買手であったファンドが売手に回っている。今後も資源高やインフレが続く限り、不動産価格も下落が続く。
		広告代理店（営業担当）	・月ごとの広告受注の落ち込みに歯止めが掛からなくなっている。
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・派遣需要が極端に落ち込むことはないものの、新規求人を控える動きは今後も続く。
		民間職業紹介機関（職員）	・建設日雇求人はこれ以上悪くなりようがない。一方、今後は季節的要因でやや回復に向かうが、今年はそれすら不透明との声も聞かれる。

	民間職業紹介機関（支社長）	・企業による採用が慎重になる状況は変わらないが、採用ニーズそのものは大きく落ち込んでおらず、しばらくは今の状況が続く。
やや悪くなる	人材派遣会社（経営者）	・取引先でIT関係の業務が先延ばしとなっているほか、いろいろな事件の影響で派遣業界全体のムードが暗くなっている。企業に人が余ってきている状況は今後も変わらないため、7～9月は厳しく、反転するとしても10月以降になる。
	人材派遣会社（支店長）	・日雇派遣問題や、派遣社員による事件の報道により、業界全体のイメージは確実に悪くなっている。業界全体が逆風にさらされる状況がしばらく続く。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・医療関係の求人の企画などで打開を図っているものの、好転の兆しがみられない。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・第2四半期の新聞広告の受注が前年比で約80%と、低調な推移が続いている。
	職業安定所（職員）	・今後も原油や原材料価格が高騰すれば、各企業共に収益が悪化し、求人の抑制が広がることになる。
	職業安定所（職員）	・卸売、小売業からのパート求人は増加しているものの、正社員求人がそれを上回って減少していることから、求人全体でも減少がみられる。
	職業安定所（職員）	・製造業、運輸業の求人数が大幅に減少しており、地域にも活気がない。
悪くなる	職業安定所（職員）	・前年と比較して高卒求人の出足が鈍い反面、正社員での採用を希望する動きは続いている。特に、製造業を中心に20代前半の派遣社員による来所が増えている。一方、65歳以上の女性が生活に不安を感じ、職探しをする動きが増えているなど、上向きの材料が見当たらない。
	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・安定雇用を求める人の増加で転職市場が停滞しており、しばらくは今の状況が続く。